

総論

# チャンスの女神には前髪しかない 天は自ら助くる者を助く

やまもと けんいち  
山本 賢一

(独)国際協力機構  
東南アジア・大洋州部審議役

## 1 新年に推進工法と聞いて思うこと

どのビジネスでも共通と思いますが、推進工法のこれまでの海外展開を考えて、率直に次の言葉がパッと頭に浮かびます。

**Grasp Fortune by the forelock.**

『チャンスの女神には前髪しかない』

**Heaven helps those who help themselves.**

『天は自ら助くる者を助く』

今でこそ、機動建設工業(株)がインドネシアを中心に活動し、ヤスダエンジニアリング(株)がベトナムを中心に活動しています。でも、なぜこれら企業だけで、他企業の顔が見えないのか？ これら企業はなぜ、いきなり見知らぬ土地に出て行き、ここまで活動しているのか？ 純粹にそれを考えると、冒頭の言葉が私の頭には浮かびます。

徒手空拳で立ち向かってものになる分野なんて、国内でもありません。それどころか、日本の名立たる企業が今まで培ってきた技術や経験知を活かせぬままに、多様化にも選択と集中にも失敗し、事業継続すらままならない状態がこれまでの20年だといえます。ましてや、海外なんてなら経験もなかった推進専門企業（機動建設は違いますが）がなぜインドネシアやベトナムで活動

を軌道に乗せてきたのか。新年を迎え、今一度、皆さんとその足跡を振り返り、あとに続く方々へのヒントとなることを期待しています。

## 2 推進工法の海外展開がはじまるまで

今でこそ、推進業界でも少なからぬ企業や各人が海外事業に興味を持ってくれていますが、私が日本の推進工法技術が海外にて間違いなく必要とされると発信をはじめた7年前は、ヤスダエンジニアリング(株)を除き誰も海外事業には興味を持っていませんでした。とって国内に十分な事業量があるわけではなく、また大手建設会社が海外で推進工法を手がけるために国内専門に声をかけるということもない状態で、日本企業が蓄積してきた推進工法の技術・経験などの継承もままならない状態でした。その状態でも出てこないのなら、これ以上の勸奨はお節介にしか過ぎないと反省し情報提供を止めようかと思ったのが5年前（2013年）です。

私が所属する(独)国際協力機構（以下、JICA）は政府開発援助（以下、ODA）の実施機関ですが、それまでのおよそ10年間（2003年頃から2013年頃まで）、海外で下水道事業をほとんど進めていません。理由は簡単で、日本のエンジニアリング企業が海外で下水道事業を自分たちが主契約者として受注する準備ができていなかったからです。当時は大手建設会社が主契約者、

エンジニアリング企業は単なるサプライヤーという立場で受注していたため、大手建設会社が興味を示さない限り下水道案件は作れないというのが実情でした。大手建設会社の意向でエンジニアリング企業が受注を逃すという構図を変えるべく、日本企業が進出を加速させていたベトナムにてエンジニアリング企業が主契約者となるJICA初の入札条件を整え、JICAが下水道事業を再開したのが2013年のことです。

### Grasp Fortune by the forelock.

『チャンスの女神には前髪しかない』

はじめは、それまで誰も見向きもしてくれなかった推進業界にあって、(株)イセキ開発工機がヤスタエンジニアリング(株)や機動建設工業(株)の協力を得ながら、JICAの中小企業海外展開支援事業にジャカルタを対象に応募してくれたことです。もちろん、皆さん右も左もわからないジャカルタでしたが、当時、下水道PPP事業計画を進めていたオリックス(株)と一緒に、現地での活動をはじめました。そして、本当に奇跡がおこります。

前述した応募事業を実施中に、これまた降って湧いたような話ですが、安倍首相とのムルデカ宮殿での晩さん会が床上浸水で不可能になったユドヨノ大統領（2013年当時）が、その日のうちにインドネシア公共事業省の担当課長に洪水対策指示の電話を入れ、まさにそのときに推進工法の説明に参加していた同課長が推進工法そのものに目をつけたことが、イセキ開発工機(株)、機動建設工業(株)、ヤスタエンジニアリング(株)の3社JVによるチリウン川洪水対策放水路建設事業（インドネシア政府発注、総事業費 約50億円）に結びついていきます（ところで、安倍首相と大統領の晩餐会は流れました。安倍首相が、アフリカでの日揮の痛ましい事件のために急遽日帰りされたからです）。

この事業がなければ、機動建設工業(株)がインドネシアでヤスタエンジニアリング(株)がベトナムで活動しているなんてことはなかったと思います。「チャンスの女神には前髪しかない」と心底実感しました。

## 3 ヴェトナムでの推進工法普及

本来であれば、チリウン川洪水対策放水路建設事業に続きジャカルタで莫大な量の下水道事業がはじまる予定でしたが、途上国にありがちな紆余曲折や当時から今に至るまでジャカルタで下水道整備を担当している本邦コンサル（本号の津森専門家の寄稿参照）のあまりのできの悪さに、ジャカルタでは今も下水道事業が開始されない状態となっています。

代わりに、JICAが実施するODA事業で世界に先駆け10年ぶりに下水道整備事業を開始したのが、ヴェトナムの2大都市であるホーチミン市とハノイ市です。ヤスタエンジニアリング(株)がホーチミン市下水道の推進工事を受注し、苦勞されながらもなんとか設計変更もホーチミン市に認めさせるまでに漕ぎ着け、ようやく工事を軌道に乗せたところです。また、ハノイ市下水道については、3工区ある推進工事のうち第1工区について、協会の会員企業が現在契約交渉中と聞いています。右工区に続き、来年中に残り2工区も入札が開始されますので、是非、協会の会員企業の皆さんが活躍されることを期待しています。

さて、話をホーチミン市下水道に戻します。ヤスタエンジニアリング(株)が工事契約をされたのは、2016年1月です。当初、コンサルタントから提示された設計図面は、市街地の道路平面図に管きょが線で描かれている程度の本当にずさんなものでした。現場に行ってみれば、6m径の立坑を掘ることになっている道路の幅員が4mしかない、などというとんでもないことだらけ。あまりの酷さにホーチミンで下水道管きょ工事経験があり参入意欲を持っていた大手建設会社すら軒並み敬遠したほどです。それでも、右も左もわからない状態であろうと一旦契約してしまえば、どれほどずさんな設計であろうとヤスタエンジニアリング(株)に施工責任が発生します。当のコンサル（本号の若公専門家の寄稿参照）はそれをいいことに、自分たちののできの悪い設計は棚に上げ、ヤスタエンジニアリング(株)にすべての責任を転嫁するという状態でした。